

第 68 号

発行所 〒157-8560
東京都世田谷区成城 1-13-1
東京都市大学附属中学校・高等学校内
電話 03-3415-0104
発行責任者 安藤 友二
編集責任者 清水 茂



東京都市大学附属中学校・高等学校〈同窓会ホームページ〉
<http://tcu-kasiwa.org/>

今までは、本校卒業生の皆様との唯一の連絡媒体として当会報「柏」の発行（年2回）をしていましたが、これからはHPからのご案内並びに通信となりますので会員登録を必ずお願いいたします。

私の人生、概ね、面白かった

大岩 ^{きよ} ^し 滯 矣 5期生（昭和33年3月卒業）



私は、昭和14年9月21日に、当時の満州国大連市にて出生しました。

大連はソ連と中国（当時の満州国）の国境に近く、欧州風の風情を持つ良い環境でしたが、私が2歳の頃、父の勤務地が北

京に変わり、住居は市内にあるピンアンリー（平安里）という場所に家を借りることになりました。この地域は世界各国の大使館が集まっている区域で、大戦勃発後EU諸国の大使館は自国に引き上げ、空家を借り住んだこと。3階建て+地下1階で地下と1階の「間取り」が全く同じでした。戦後、中国軍が北京に戻り、今度は、私達がこの住居から追出され、中国風空家を借り、帰国までの数か月はそこで暮らしました。

父は、明治27年愛知県長篠村、貧乏な農家の9人目の子として、母親は大正元年に川崎市二子新地にて生を受け、女学校を卒業後、中国での就職先は、有名な馬賊（張・宗援）で本名は伊達準之助【仙台伊達本家子息】の事務所に勤務しました。私は戦後、成人になって経緯を聞き、賊の事務所に就職とは、びっくりでした。伊達準之助は戦後、小説【『夕日と拳銃』】として小説になりました主人公でもあります。父は、貧乏で子沢山な農家の7男に生まれ、小学生卒業後は、丁稚（でっち）奉公に出されると決まっていたのですが、幸運なことに、小学校の先生の手引きで東京の大学教授宅へ預けられ、奉公さらに、勉強をして、早稲田大学に入学、卒業を果たし、満州鉄道に就職でき、順調に社会へとスタートを切ることが出来ました。

私に物心がついて来たのは、第2次世界大戦敗戦間際の頃です。当時は中国・北京に住み、不自由なく生活をしていましたが、昭和20年の敗戦後直ぐには帰国せず、戦後の混乱が収まるまで北京に滞在していました。

混乱が落ち着き出した昭和21年初頭、帰国に向

けて大勢の日本人と共にタンクー港へとゆっくりとしたスピードの無蓋貨物列車で移動し、途中1度だけ駅でもない原野で銃声が鳴り列車は止まりましたが、何事もなく列車は走り出し、タンクー港に到着し、武器解除された日本兵の方々に迎えられ、子供心でも安心することが出来ました。

船を待つ数日を過ごし、米国海軍の巨大な戦車搭載用の上陸用舟艇に乗船し、帰国の途に就きました。上陸用舟艇の船底は、戦車専用艦でしたので、平らな船底に200枚以上の畳を敷き雑魚寝していたのですが、大人は甲板に上がるのも制限されていたようですが、子供達には寛大で、何処でも自由に遊んで過ごせました。数日後本州の最南端に近い、日本海側の先崎港で上陸。父は、満州鉄道の全倉庫の責任者であった故、当時の中国政府のボス、蒋介石の指示で、倉庫の中身欲しさもあり、拘束されてはいない状態でありましたが、帰国許可が下りず2年程遅れて帰国できました。

故に、母、兄及び私の3名で帰国の旅は、悲壮感はなく、大冒険でという感覚が強く、楽しかった次第です。

私達は、焦土と化した東京都の隣、川崎市二子新地に居を構え、そこから世田谷区にある、京西小学校、瀬田中学、武蔵工大附属高校で学びました。この附属高校は、未だ戦争の影響もあったようで、高校の先生方は主に「各分野の専門の方々が多かった」と記憶しております。例えば音楽の先生は、オペラ歌手でもあり、教室で歌うと、校内全てで聞こえるバリトン歌手であり、英会話・体操選手であったりと大学時代は遊び過ぎて機械工学科を望んだのですが、大岩の成績では電気科・電気通信科・土木科以外はダメが出ました。故に当時は車の急成長時でもあったので、立川の自動車整備学校へ。就職先は、伊藤忠自動車・高島屋デパート（自動車販売部）・カローラ高島屋（株）。友人と共に独立し、約45年前「株式会社TOM'S」を立ち上げ現在に至ります。

以上

第60回『柏苑祭』報告

14期生 清水 茂
平成30年9月29日(土曜日)／30日(日曜日)
の二日間、毎年催される母校最大のイベントとして生徒自身が企画・定着している『柏苑祭』が、今回60回を迎えるに至りました。今年の大きなテーマは“Adventure”。校長先生並びに柏苑祭執行委員の皆様がプログラム巻頭にも記してありますが、会場・校舎の入り口に共同制作され飾られた“Ship(船)”は生徒自身とも。さあ、大海原に向かって出航。これまでの“固定概念”を削り取り、“冒険に挑む”、というこのテーマには相応しいモニュメントが印象的であった。大海原へ出帆すれば“船長”は自分自身。責任を持って荒波を超えて目的地へ向かう。男子校ならではのテーマが深く息衝いている。

なお、恒例の“同窓会賞”(10回目)には、「生物研究部」が受賞。今後の研究にさらに力を入れてください。おめでとうございます。《同窓会の部屋》の企画として、井上順嗣(物理)先生に『退職された先生の講話』としてお願いいたしました。先生のお住まいにも程近い多摩地区の〈玉川上水・歴史散歩〉を中心に、ご自身・自作ガイドマップにて講話された。ここが東京の奥座敷? 環境をこれ以上破壊しないでいただきたいのです。



「同窓会賞、「生物研究部」受賞。



井上順嗣(物理)先生

キャリアスタディーに関わって思うこと

37期生 小林 隆之



今から5年前、私達37期生で開催した同窓会に、キャリアスタディ委員長の小泉さんと故青木さんをゲストとしてお迎えし、キャリアスタディーのプロモーションして頂きました。

活動内容に大変共感したのに加え、委員長の熱意に心を動かされ、本プログラムのコーディネーターを務めさせて頂く事になりました。

このプログラムに取り組んでみて気が付いた事が多くあります。

まず、我々社会人は何のために仕事をし、その価値について学生に何を伝えるべきか、そんな当たり前の様な問いに対して明確な答えを持っていなかった事です。

そこから、この問いが私にとって大きな関心事となり、改めて「仕事」というテーマにアンテナを張り、スタディーを続けて来ました。

私が最も届けたいメッセージの一つは、「仕事」とは、人の生活を豊かにし、社会の維持発展に貢献出来るものであり、そしてそれが自らの喜びになるという点です。大人になって目の前の仕事に追われると、そんな当たり前の様な事も見失ってしまいがちだと改めて思ったからです。

また、自分の好きな事や得意な事が仕事に結び付けば、より効果的に力を発揮出来るのは明らかで、学生時代にそこを意識して将来成りたい自分像を描き、具体的な準備期間とする事が出来れば、有意義な学生生活を送る事が出来るという点も伝えていきます。

私は現在、キャリアスタディ委員として運営にも関わらせて頂いておりますが、これだけの規模のプログラムを運営するには、相当な労力が必要である事を見参りました。

この企画の運営がこれまで10年以上も継続しているのは、学校側と卒業生側のプログラムに関わられている全ての方々の情熱によるものと信じてやみませんが、その情熱の源は、先生にとっては生徒への愛情であり、卒業生にとっては後輩の活躍を応援する気持ちではないでしょうか。

卒業をしてからも後輩の応援という形で母校と繋がってられるプログラムは画期的であり、我が校がモデルとなって他校から真似をしてもらえる程の更なる発展を目指して行きたいと思う所存です。

《公示》 同窓会総会・懇親会開催案内

第44回同窓会総会及び懇親会を下記の要領で開催いたします。

同窓会会員【1. 正会員：(1) 武蔵工業大学附属中学校・高等学校及び東京都市大学附属中学校・高等学校の卒業生で入会を意思表示した者 (2) 同校に在学した者で本会の趣旨に賛同するもの
2. 賛助員：(1) 武蔵工業大学附属中学校・高等学校及び東京都市大学附属中学校・高等学校の現旧教職員 (2) 本会の趣旨に賛同し理事会の承認を得た者（東京都市大学附属中学校・高等学校同窓会規約より）】の皆様はお誘い合わせの上ご参加下さい。

総会後の懇親会では、成人の祝い、還暦同窓会及び同期会を実施いたします。

- 成人の祝い〔64期生（2017年3月卒業）対象〕
- 還暦同窓会〔25期生（1978年3月卒業）対象〕
- 同期会〔35期生（1988年3月卒業）対象〕

懇親会には現職の先生方及び退職した先生方にご参加いただきますので、交流や情報交換の場としてご活用ください。

なお、成人の祝い、還暦同窓会及び同期会対象の方は事前申し込みが必要です。（別途ご案内します。）

記

★総会

日時 2019年5月25日（土）16時より16時30分
場所 渋谷 エクセルホテル東急 6階 プラネッツルーム
 東京都渋谷区道玄坂1-12-2（渋谷マークシティ内）
 TEL：03-5457-0109

議題（予定）

- 1号議案 2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）活動報告
- 2号議案 2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）決算報告
- 3号議案 2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）活動計画承認
- 4号議案 2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）予算案承認
- 5号議案 新理事の承認
- 6号議案 規約改正承認
- キャリアスタディ報告その他



★懇親会

日時 2019年5月25日（土）16時45分より19時30分
場所 渋谷 エクセルホテル東急 6階 プラネッツルーム
 東京都渋谷区道玄坂1-12-2（渋谷マークシティ内）
 TEL；03-5457-0109

会費 6,000円／人・当日支払い。（成人の祝い、還暦同窓会及び同期会対象者は別途案内の金額を事前振り込み）



渋谷マークシティ（渋谷 エクセルホテル東急）

投稿

絵画芸術鑑賞へのお誘い



14期生 清水 茂

私は、附属中学に昭和36年春入学。中学・高校とも美術部長を務めさせていただきました。

元もと幼稚園の頃より父親の勧めで、当時の『絵画教室』に通い始めました。

花瓶に生けた花を画材としたり、静物を写生したりもしました。

小学校に入学してからも授業の休み時間には、新幹線や赤胴鈴之介の漫画などを級友から頼まれ描いたり、当時の『図画工作』にはとても興味を示して、展覧会では必ず入賞していた記憶があります。

特に、だいぶ経過してから本格的に芸術というものに興味を抱いたのは、以前の会社を退職して不動産の事業を興し、その時に夢にまで見た《画廊》を併設したときです。

芸術家とのお付き合いも増え、当初は芸術の本質をそれ程に理解してはいなかったのですが、もともと絵を描くことが好きだったためにそれぞれの芸術家の先生方との触れ合いから、人間性にも触れることができたことは今でも私の大きな宝物となっています。

ということで、《平面芸術》について簡単に考察させていただきます。X、Y、Z 軸で表すことのできる事物全てが、空間に存在する形として視覚から脳に伝達・形成されます。

平面芸術は、これらの事物を2次元の平面上に圧縮表現するという作業です。これはすべての事象に対する認識として重要です。〈想像力〉また、絵画芸術を創作(制作)することでも同様に、見えない「裏側」を描くことで、例えば「花瓶が立つのか倒れるのか、等々 真実が問われるのです。(立体感・質感・存在感等)ただし、デフォル・マシオンするにもデッサン力の基礎が特に要求されます。

作者は2次元の世界に表現させることから、そこに事物の「本質」を捉えることが可能であるとともに、それらを鑑賞・観察するということは蓄えてきた鑑賞者の教養と重ね合わせることでその意義と成果が学び取られるのです。

現代社会において「常に動いている一方通行による視覚メディア」の氾濫した昨今の状況下においては、見たままの情報は、対象が「動いている、ために常に「動」に眼を奪われて細部を細やかに観察することができていない。

子供達にも是非とも、絵画作品の陰に隠れているまたは、隠されている情報から、デッサン・色彩・マチエールなどを通して人間としての脳や感性を働かせ「観察力」が育つ環境である絵画鑑賞を主体に話を提供したいと思います。

壁に掛けられた絵画作品から、静寂の中でじっと観察するその行為から、自由な発想が得られる世界へと深い思考が培われる筈です。

情報化社会が造り上げてきた子供達の心の奥に深く埋もれてしまって身動きの取れなくなった「深い思考力」・「洞察力」・「感性」・「感受性」を取り戻すことは現代人の喫緊の課題でもあり、作品を鑑賞する集中力、それがさらに癒しの空間へと誘われることにおいて、真の心の豊かさを実感されることと思いますが如何でしょうか？

キャリア発表会



発表会の様子



協力企業への感謝状



大岩様への感謝状



小林隆之:業あり先生